

# 知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校  
校長室だより  
校長 白田 敏幸

## 「思春期の子供と向き合うために」

先日、寒河江市教育研究所陵南学区 PTA 研修会にて、「思春期を迎える子供をもつ親のための子育て講座」が開催された。子供たちの成長を支えるために、私たち大人がどのように関わるべきかを改めて考える貴重な時間となった。



講座ではまず、「親としてやらなければならないこと」とは何か、という問いかけがあった。私たちは日々、子供のためにと様々なことを考え、行動しているが、それが本当に子供のためになっているのか、時には立ち止まって振り返る必要があるというお話があった。親の「こうすべき」「こうあるべき」という思いが、知らず知らずのうちに子供を縛ってしまっていることもある。

研修では、国連の「子供の権利条約」に定められている四つの基本的な権利についても紹介された。①生きる権利（命を守られ、衣食住や医療が保障されること）②育つ権利（持って生まれた能力を伸ばしながら成長できること）③守られる権利（暴力や搾取から守られること）④参加する権利（自由に意見を言い、団体を作ることができること）これらの権利を保障するために、大人は子供が安心して生きられる環境を整える責任がある。

特に印象的だったのは、「子供の声を聴く」ということの大切さである。私たち大人は、つい誘導的な質問をしてしまったり、子供の言葉をまとめ直したり、否定したり、決めつけたりしてしまいがちです。例えば「学校で嫌なことがなかった？」という問いかけは、嫌なことがある前提で聞いてしまっていることになる。子供の言葉をそのまま受け止め、否定せず、決めつけずに聴く姿勢が大切だと学んだ。

また、子供に対して感情的にならず、「私はこう感じた」というような「Iメッセージ」で伝えることで、子供にも気持ちが届きやすくなるという話もあった。子供の思いを中心に置きながら、大人のを伝えることでよりよいコミュニケーションが生まれる。

最後に講師の先生が強調されていたのは、「大人が機嫌よく笑顔でいることが、子供の心の栄養になる」ということだった。大人が自分自身を大切に、楽しく生きる姿を見せることが、子供にとって何よりの安心につながる。

思春期は、子供が自律に向かって大きく成長する時期である。だからこそ、私たち大人が子供の声に耳を傾け、心を寄せることが求められる。今回の研修を通して、子供との関わり方を見直すきっかけをいただいた。保護者の皆様にも、ぜひこの学びを共有し、共に子供たちの成長を支えていけたらと思っている。

